

平成20年度 自己評価書

【別紙1-1】

鈴鹿市立天名小学校					
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	達成状況	成果と課題	今後の改善点	
学力保障	授業改革 授業研究	①「きく」「はなす」力を育成する。 【評価指標】児童アンケート2 ②反復練習などで、学習内容の定着を図る。 【評価指標】児童アンケート5	①7月達成率82%から12月達成率87%に上昇している。 ②課題や宿題をきちんとやりとおせない子がわずかだがいる。	各学年で「声の物さし」を掲示したり、「話を聞く時の注意事項」などについて話し合いをし、それを掲示することにより、少しずつではあるが、その力は育ってきている。今後、スピーチの練習や聞き取りの練習などで、実践力を養っていく必要がある。また、教師間で指導方法の交流会をもつ時間をとる。	今後、スピーチの練習や聞き取りの練習などで、実践力を養っていく必要がある。また、教師間で指導方法の交流会をもつ時間をとる。
	少人数指導	・少人数を生かして一人ひとりの学習状況を把握し、それに応じた個別指導をする。 【評価指標】児童アンケート1	児童アンケート93%とほとんどの児童が授業がよくわかると感じている。	個別の学習状況を把握しており、個別指導にいかしているが、それ各担任に任されている。	それぞれの達成状況を引き継いでいく途切れない指導が必要である。
	学習ボランティア活用	地域の人材を活用して、教育活動の向上を図る。 【評価指標】地域人材の活用状況	多くの学年が地域と密着した総合学習を実施した。	米作り体験では、多くの人に関わっていただいている。地域探検、朝市、地域への思いなど数多くの方のご協力を得ている。	本格的な学習ボランティアとして、定期的な活動をお願いできる人材を確保する。
	補充学習	夏休み補充学習を実施する。 【評価指標】開催日数	夏休み 3日間実施	夏休みはじめはキャンプや公民館行事と重なったため、後半に3日間実施したが、参加率はあまりよくなかった。	学年毎に実施したり、夏休み初めに実施することで、参加者を増やす。
	キャリア教育 (すずか夢工房)	すずか夢工房などを活用し、外部講師を招いた体験活動を実施する。 【評価指標】実施回数	夢工房は全校で1回。3・4年2回・5年1回。その他1・5年陶芸教室。4年自助具、お茶・環境教育など実施	学年によりかなり偏りがあった。できるなら、複数学年等で実施していきたい。	体験活動は、今後も計画的に取り入れていきたい。
	環境教育をすすめる。	①リサイクル活動としてペットボトルのキャップを集める。【評価指標】回収したキャップの数値 ②電気・水道の省エネに努める。 【評価指標】児童アンケート7	①ペットボトルのキャップ回収 個 ②7月82%から12月86%と向上してきている。	①子どもたちや保護者だけでなく、地域の方やマルハン、住友電装など企業の人たちの協力も得られた。リサイクル部門で表彰されることも励みになった。 ②省エネについては、かなり意識向上してきている。	①キャップ集めはずいぶん定着してきている。今後も続けていきたい。 ②不必要な電気・水の点検活動に力を入れていく。また、家庭や地域へも活動を広げていく。
生徒指導	①あいさつをする習慣をつける。 【評価指標】児童アンケート9 授業参観時の保護者アンケート ②チャイムですばやく行動することができる。 【評価指標】児童アンケート10 ③ものを大切にすることを育てる。 【評価指標】学期末の落とし物チェック	①児童アンケートによると91%の達成率である。授業参観時のアンケートでもよくできている、まあまあできているがほとんどである。 ②チャイムですばやく行動できる児童が 7月87% ③落とし主のわからない物はあいかわらず多い。	①あいさつをしていると思っている児童は多いが、実際に学校に来ていただいた方や、登校指導をしていただいている方にすすんであいさつできる児童は少ない。 ②チャイムで行動しようとする児童は増えてきているが、上級生になるにしたがって、その意識は薄い。 ③授業参観時などに引き取ってもらっているが、記名のないものが多い。	①子どもたちの意識と教師の達成度に関きがある。児童会を中心として取り組むなど手だてを講じる。 ②チャイムとともに授業がはじめられるようにするために教師が教室で迎えるなど、考えていく。 ③持ち物への記名の徹底をはかる。	
人権教育	①仲間づくり・とぎれのない指導に取り組む。レポート研修、人権総合学習を行う。 【評価指標】回数 ②縦割り活動を通じて異学年交流を行う。 【評価指標】児童アンケート8 ③いじめの相談に対し、解決に向けて取組をしていく【評価指標】いじめアンケート追跡調査	①学期1回のレポ研、各学年 年1度の授業公開を実施。 ②縦割り活動は低学年の方が楽しみにしている。 ③いじめに関しては全教職員で共有し、そのときどきで指導をする。	①レポ研、研究授業など、きちんと実施している。さらに内容を検討していく。 ②高学年が責任を持ってやり遂げたという自覚をもっと持たせたい。 ③いじめについては、特にアンテナを高くして全教職員で対応していく必要がある。	①レポ研では、どんな手だてをしたらどんな成果があったかなどの視点を加え、さらなる充実をはかる。 ②縦割り班活動は、高学年の意識の向上を図って生井。 ③教育相談の時間が確保されていない。来年度は時間を確保していく。	
開かれた学校	①米作り・天名マイふれあいフェアなど、地域の思いにふれる活動をすすめる。 【評価指標】児童アンケート6 ②授業公開をする。【評価指標】開催回数 ③情報発信をしていく。 【評価指標】学校だより・学年だよりの発行回数・ホームページの更新回数 ④地域とともに子どもを育てる取組をする。 【評価指標】開催スケジュール	①体験活動は児童にとってうれしいことであり、大切なことだと感じられている。 ②授業参観 年3回 ③情報発信についてはほぼ達成できた。 ④米作りに関しては、開催スケジュールが組まれている。	①保護者の名かには、マンネリ化を懸念している方もみえるので、体験活動の意義等について理解を求めていく。 ②授業公開のしかたについては、3回のうち一度は半日あるいは、一日公開をしていく方向。 ③ホームページの閲覧状況などについても調査したい。 ④米作りに関しては、地域とんぼ最大イベントでもあり、このまま続けていきたい。	①地域本部事業に指定されたこともあり、さらに勤めていきたい。 ②授業公開の時間や不審者対策についても考えていく必要がある。 ③ホームページについては、もっとアピールしていく。 ④今後も続けていく。	
安全教育	①登下校の安全を確保する。 【評価指標】 防犯教室の開催。登校指導・校指導の回数、ホイッスルの携帯率 ②自転車の乗り方の指導をする。 【評価指標】交通安全教室の開催ヘルメットの着用率 ③授業内での安全に気をつける。 【評価指標】 けがの程度・頻度	①防犯教室を開催。全教員登校指導を実施した。下校指導、年2回実施。・ホイッスルの携帯率100% ②交通安全教室実施。それに伴いヘルメット着用率100%	①防犯教室(連れ去り)を実施。全員、体験できた。実施方法については、いかに真剣にむきあわせるかが課題である。 ②交通安全教室では、低学年でも自分の自転車で体験させることも必要かと思われる。	機振車体験や警察、青少年課の方を招いての防犯教室、交通安全教室など体験活動等、今後も実施していきたい。また、自転車については、点検活動についてももう少し考えていきたい。	